今月のトピックス　「小麦の品種と病害について」

1）赤かび病

糸状菌による病気で、開花期に降雨が続くと多発します。高温は発生を助長します。最近では 1998 年に大発生し、2006 年にも多発が見られました（図 1)。「タマイズミ」「ニシノカオリ」は「農林 61 号」「あやひかり」よりもよく出ます。薬剤防除は開花期の予防散布が基本です。降雨が連続する場合は追加防除も必要です。

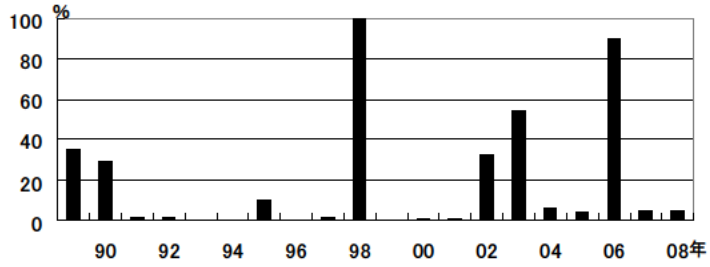

図 1 三重県のコムギ赤かび病の発生圃場率の年次推移

2）縞萎縮病

葉がかすり状となるウイルス病で、土壌伝染します（図 2)。「農林 61 号」は多発し、「タマイズミ」もよく発病します。「あやひかり」「ニシノカオリ」はある程度の抵抗性がありますが、「ニシノカオリ」ではしばしば発病が見られます。「農林 61 号」の栽培面積が減少していることによって、県全体としては発生が少なくなってきています（図 3)。早撒きで発生が増えるといわれています。防除薬剤はありません。

図 2 縞萎縮病の病徴

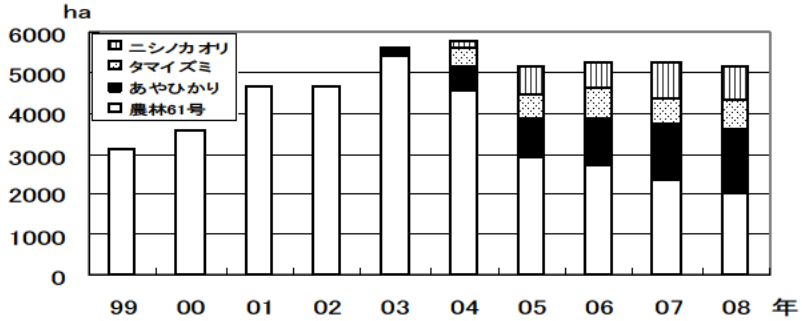

図 3　三重県のコムギ品種作付面積の年次推移

3）黒節病

細菌病で、葉、茎に発生します（図 4)。206 年に本県では「あやひかり」と「農林 61 号」で発生が見られました。種子伝染するといわれ、暖冬の年に発生が多いとされています。連作をさけ、健全種子を使用してください。「あやひかり」は発生しやすいようです。

図 4　黒節病の病徴（農業研究所提供）

4）株腐病

糸状菌による病気で、主に茎の地際部に発生します。菌核が土表に落ち、翌年の感染源となります。時折「ニシノカオリ」で発生が見られます。抵抗性品種はありません。

三重県病害虫防除所